

家庭教育支援者地区別研修（会津地区）



- 目的： 家庭教育に関わる地域の課題や子どもたちを受け止める家庭環境づくりについて研鑽を重ね、地域で子育てをする親を支援する家庭教育支援者の実践力を高める。
さらに、家庭教育支援チームの実際を学び、地域の家庭教育支援者の後継者育成を目指す。
- 日時： 令和元年度11月13日（水）10：10～15：40
- 場所： 道の駅あいづ 湯川・会津坂下
- 参加者： 52名

講義・演習Ⅰ「家庭教育支援について、みんなで考えよう」 桜の聖母短期大学生生活科学科福祉こども専攻こども保育コース 講師 長谷川 美香 様



参加者全員が「たいへん参考になった」等肯定的に回答しており、満足感が大きい内容であった。

「相互の助け合いに向けた気持ちを育むこと」や「子育ての楽しさを共有できる語り」などの視点で支援観について事例に即してお話いただいた。

演習では参加者によるロールプレイを通して具体的な支援の在り方を探り、子育てのメリットとして子どもだけでなく自分も成長しているという意識を高め、保護者、さらには子供の自己肯定感を育む具体的な支援の重要性を共有することができた。



【参加者の声】

- 自己肯定感の定義が分かった。自分の支援がついつい「話す」「説得する」ことが多い中で「聴く」「共感する」ことの大切さがよく理解できた。
- 保護者の「自己肯定感を育む」ということがとても参考になった。「ほめる」「共感する」実践をしていきたいと思った。
- ロールプレイではグループ内の意見や他のグループの発表を見て様々な考え方や支援法が分かり参考になった。



講義・演習Ⅱ 「メディアとの上手なつきあい方～スマホのある時代の子育て～」 実践女子大学人間社会学部人間社会学科教授 駒谷 真美 様



参加者全員が「多いに参考になった」と回答しており、参加者の満足感が大きかった。

今時の子育てにおいて母親の9割以上がスマホを使用しているという現状を説明いただいた後、スマホの肯定的活用について乳幼児期のおすすめのアプリやスマホの落とし穴を具体的事例にもとづいてお話いただいた。

目的意識を明確にして親子が一緒にメディアルールを考え行動することで、ルールが習慣化されるようになる。グループワークではメディアルール作りに取り組み、支援の在り方について理解を深めることができた。



【参加者の声】

- スマホの使用を批判するのではなく肯定的にとらえた子育ての視点が新しかった。保護者と今までと違った会話ができそうである。
- 発達段階に合わせたルール作りがとても良かった。
- 保護者の皆さんにメディアとの向き合い方を学べる場は継続的に提供すべきと思った。